



写真右／旭川医科大学病院にて執刀を担当する優衣先生。
写真左／優衣先生、市立函館病院研修医時代の仲間たちと。

夫婦共に医師として働きながら、仕事と子育てを両立させる

優衣先生は外科医、夫の淳先生は消化器内科医と、夫婦共に医師として働く上杉先生夫妻。1歳になる長男と、2023年2月に誕生したばかりの第二子との4人家族だ。

現在の居住地は室蘭市。札幌市出身の優衣先生と恵庭市出身の淳先生が、この地域を選んだ理由は大きく分けて2つ。1つ目は、優衣先生の父親が室蘭市で開業医として働いていること。「室蘭へ来たのは、2人目の妊娠中。2人の子どもを育てながら働く上で、両親が近くにいるというのは安心だと思いました」と、優衣先生は言う。両親が暮らす実家は、上杉先生夫妻が暮らす家から歩いて行ける距離にあるそうだ。

2つ目は、淳先生が室蘭市製鉄記念室蘭病院での勤務を希望していたこと。「消化器内科医として学びたいことが学べる環境がありました」と、淳先生の意志で就職を決めた。

優衣先生は、2ヵ月間の産休・育休を経て4月より、父親の病院を手伝いつつ、登別すずらん病院の外科医として復帰予定だ。職業を問わず、多くの女性が両立に悩む仕事と子育て。優衣先生は、自身の仕事と子育てについてどのように考えているのだろうか。

開口一番、優衣先生は「本当に、周り



北海道ではたらく！リアルインタビュー Real Interview

医師・夫妻のライフワークバランス

医師としての仕事と、子育て。大好きな北海道という場所でも、周囲の力を借りながら歩む日々。その背景にある葛藤と、描くこれからの訪ねて。

PROFILE

登別すずらん病院
上杉 優衣 先生
Yui Uesugi

出身地 札幌市
出身大学 旭川医科大学

市立函館病院にて初期研修。道内各地の病院で消化器外科・一般外科に勤務した後、第一子を出産。その後、2022年より登別すずらん病院にて勤務。第二子を出産し、産休・育休を経て2023年4月より復帰予定。

室蘭市製鉄記念病院
上杉 淳 先生
Atsushi Uesugi

出身地 恵庭市
出身大学 旭川医科大学

動医協中央病院にて初期研修。消化器内科医として動医協中央病院をはじめ道内各地の病院での勤務を経て、2022年7月より室蘭市製鉄記念病院にて勤務。淳先生と優衣先生は高校時代からの同級生。

に恵まれている環境にいると思います」と周囲への感謝を語る。

登別すずらん病院では、院内の保育所に子どもを預けながら、9時半から15時半頃までの時短勤務をする予定だ。加えて、子どもが急に発熱した際などは休めるように病院側が体制を整えてくれている。こうした柔軟なサポート体制が受けられることも、登別すずらん病院を選んだ決め手の一つだった。

「第一子妊娠中に勤務していた札幌の病院でも、周りの方からサポートしていただきました。体力的な負担が大きい長時間の手術は外してもらったり、休憩を入れてもらったり。当直当番が一切なかったのが、一番大きかったかもしれない。仕事は大好きなので、こうしたサポートの上、執刀を担当できたのもありがたかったですね」。

淳先生も約2週間の育休を取得。「周りの男性医師にも育休を取る人が増えています。社会全体で取得しやすい雰囲気が生まれている気がしますし、良いことですよね」と話してくれた。

悩みながら描いてきたこれからの生活とキャリア

小児科医として働く父親のもとで生まれ育ち、自身も医師として働く道を選んだ優衣先生。学生時代に出会った先輩外科医に憧れ、外科医になることを決めた

室蘭市の自宅にて取材に応じてくれた上杉先生夫妻。「室蘭市での暮らしがとても気に入っています」と話してくれた。

